

優秀賞

赤ちゃんといっしょに笑おう

塩沢 由美子 (主婦：東京都)

自分が赤ちゃんだった時のことを覚えている人は少ない。そのため、電車の中で泣きわめく赤ちゃんを見ても、「ああいう時、わたしも泣きたくなかったものだ」と共感して受け止めることはなかなかできない。それどころか泣き声は騒音として受け取られがちで、騒音を止めないもしくは止められない母親に対して冷たい視線が向けられることもある。

未来を担う赤ちゃんにとって、さらには彼らの保護者にとって、現代社会は不寛容だ。そこで、次の2点をテーマにしたゲームを考案した。

- ・赤ちゃんに対する想像力の育成
- ・赤ちゃんを社会全体で育むシミュレーション

【準備するもの】

- ・カード 20～30枚・筆記用具・赤ちゃんの泣き声、笑い声を再生できるもの

【ルール】

- ・公共の場において赤ちゃんが泣く原因を、参加者全員で20～30ほど挙げ、全てカードに書き出す。暑い、寒い、痛い、かゆい、眠い、のどが渴いた、帰りたい等々、想像をふくらませてできる限り多くの事柄を挙げ、泣く原因が無数にあることをまず理解する。
- ・赤ちゃん役を1名選ぶ。赤ちゃん役はカードを引いて、ほかの参加者には見せずに書かれている内容を確認する。赤ちゃんは言葉で欲求を伝えられず、また母親を含め周囲は欲求をすぐに理解できるとは限らない、という現実と同じ状況を作る。
- ・赤ちゃん役は泣き声を再生し、ゲームを開始する。ほかの参加者は1人ずつ順番に、赤ちゃんを泣き止ませるために何をするかを発言する。用意できるのであれば、実際に人形を抱っこしたり赤ちゃん用品を使ってみたりするとよい。
- ・赤ちゃん役は、参加者の回答がカードに合わない内容であれば泣き声のボリュームを徐々に上げ、合うと言える内容であれば泣き声を止め、笑い声を流す。
- ・笑い声をもってゲームは終了とする

ゲームとして楽しみながら赤ちゃん・育児の本質に触れることが、包容力のある社会の土壌作りの一助になればと考えている。